

蒲生干潟における植物の再生過程(5) ヨシの新芽

■概要

4月にヨシの新芽個体数の調査を行った3地点で（レポートNo.35）、その後のヨシの生長を追った。また海水の影響が少ないと考えられる対照区を設置して同様に調査した。いずれの地点でも生長している様子が確認されたものの、対照区と比較すると生長は小さく、枯死した個体が多数確認された。これらから海水がヨシの生長に影響を与えていることが予察された。

■調査方法

以前調査したSt.1~St.3（レポートNo.35参照）の調査区と6月に設置した対照区（St.4とSt.5）でラインセクト法によりヨシの生長を調べた。調査項目は各プロット内のヨシの自然高（10cm階級毎）の個体数である。対照区は、南北にラインを引き、2m×2mのプロットとし、調査地区より内陸側の堤防付近に設置した。

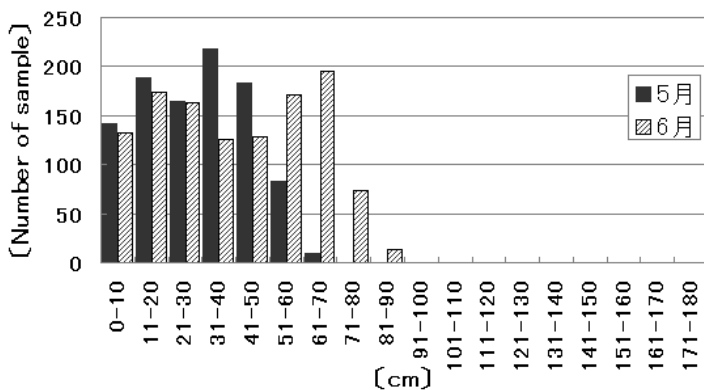


Fig. 1 調査区 (St. 2, St. 3) の生長 (5,6月)

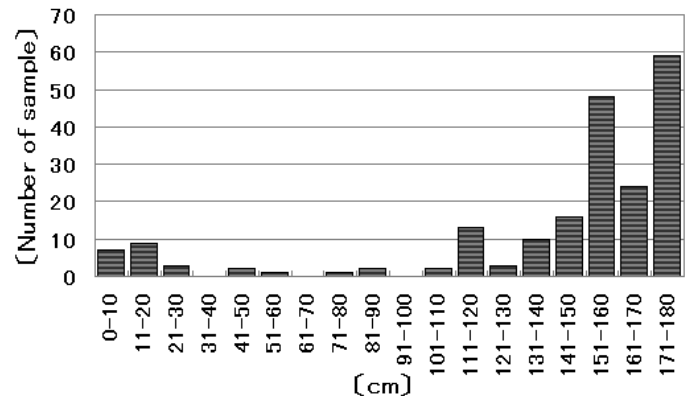


Fig. 2 対照区 の生長 (6月)

■調査結果

5, 6月継続調査できたSt.2とSt.3の結果を合わせて示す (Fig.1)。それぞれの地点で5月から6月にかけてヨシが生長する様子が見られた。しかし対照区と比較すると調査区の生長が小さいことがわかる (Fig2,3)。また目視により、枯死した個体が多数確認された。

■まとめ

地盤沈下などにより、干潟内は常時海水に満たされている。調査区のヨシは常に海水にさらされているため、生長が小さく、通常より枯死する個体も多かったと考えられる。汽水域でも生育できるヨシだが海水の影響を強く受けていた。以前の干潟ではなく、河口などのより内陸にヨシの生育に適当な環境が移動していることが予察される。



Fig. 3 対照区 のヨシの様子
(手に持つスケールの高さは2m)